

問「アレルギーの漢方治療とはどのようなものですか？」④

答 花粉症など、アレルギーの病気に対する漢方治療について、お話しています。今回は、竜胆瀉肝湯(りゅうたんしゃかんとう)のお話をします。

前回もお話しましたが、漢方一貫堂医学では、体質を、「瘀血(おけつ)証体質」「臍毒(ぞうどく)証体質」「解毒(げどく)証体質」の三つに分けて考えます。以下、前回のお話と重複するところが多いのですが、前回読んでいらっしゃる方も多いと思いますので、勘弁願います。アレルギーの病気と関連深いのは、「解毒証体質」です。「解毒証体質」は、さらに三つに分かれ、「柴胡清肝湯(さいこせいかんとう)証」「荊芥連翹湯(けいがいれんぎょうとう)証」「竜胆瀉肝湯証」とよばれています。大雑把に言って、「柴胡清肝湯証」は「子ども」、「荊芥連翹湯証」は「青年」、「竜胆瀉肝湯」は「大人」に使用すると、記載されています。

竜胆瀉肝湯は「薛(せつ)氏十六種」という書物で紹介されています。構成生薬は、竜胆(りゅうたん)、当帰(とうき)、地黄(じおう)、山梔子(さんしし)、黄芩(おうごん)、甘草(かんぞう)、車前子(しゃぜんし)、沢瀉(たくしゃ)、木通(もくつう)です。書物の条文は難解ですので割愛させていただきますが、意識しますと、主に下腹の水の流れが悪くなり、その水の流れが悪くなっているところが熱をもつ(湿熱(しつねつ)といいます)ことがあります。この湿熱のために、お腹が痛くなったり、できものができたり、便秘したり、皮膚がただれたり、尿が出にくくなったり、化膿したり、卵巣や子宮が腫れたり、性器の調子がわるくなったりすることがあります。これらの症状・所見に、竜胆瀉肝湯が有効と書かれています。

図は、私の漢方の師匠が描かれた竜胆瀉肝湯の腹証図です。①は血の流れが悪いこと(瘀血(おけつ)といいます)を表わしています。当帰が有効です。②が湿熱を表わしています。地黄と竜胆が有効です。③が胸部にたまった熱を表わしています。山梔子が有効です。これらの生薬が、竜胆瀉肝湯の主体となります。

証さえ合えば、竜胆瀉肝湯は、大人だけでなく、子どもや青年にも有効です。

